

# 地域おこし協力隊員 ただいま活動中

本市では、自然環境や地域文化など、地域資源を生かした観光の振興や地域力の向上のため、地域づくり活動に意欲のある都市住民を受け入れる「十和田市地域おこし協力隊」を置いています。今号では、市街地地区と休屋地区で活躍する隊員の活動を紹介します。



## みとめ 見留 さやかさん 市街地地区隊員



東京都練馬区出身。明星大学造形芸術学部卒業後、練馬区石神井公園ふるさと文化会館（博物郷土資料館）を経て、2016年7月に着任、市街地地区担当となる。現代美術館と連携して活動中。

―これまでの活動は？

平成28年7月に十和田市の地域おこし協力隊員となり、以来、市民の皆さんと美術館やアートを結ぶことを目的に活動しています。昨年は10月の後半から11月にかけて市主催の「焼山アートプロジェクト」の企画運営に参画しました。現代美術館と焼山地区の奥入瀬渓流館を展示会場にした、地域とアートをつなぐ試みです。

八戸市在住のアーティスト・池田拓馬さんに、焼山地区の山や奥入瀬渓流館の駐車場、訪れた人、土地の空気感を取り入れた作品を制作していただき、紅葉シーズンの焼山の自然そのものとアートを一体化して鑑賞できるようにしました。

本市だからこそできた展覧会で、近隣県や首都圏からいらした方も多く、「作品を見て、十和田市の取り組みに興味を持った」など好評でした。展覧会を2カ所の会場で開催したことによって、美術館訪問を目的に本市にいらした方が奥入瀬渓流に足を伸ばして、渓流館の展示や自然に触

れたり、逆に奥入瀬渓流の観光客が市街や美術館に訪れ、アートによって人の流れを広げることができました。

また、アーティストには2日間にわたってワークショップの講師になっていただき、展覧会のモチーフに関連した山や風景の写真、木の枝や葉などその場にある形に色を付けTシャツやトートバッグの制作を指導してもらいました。来場した子どもも大人も、物づくりの楽しみに加えて、作品鑑賞にも深みを持つことができ、「現代美術」が決して自分たちの感覚から遠いものではなく、身近で楽しめるものだとことを知っています。ただ、それができたと感じています。

―今後の抱負は？

今年、商店街の一角を利用して、現代美術館と商店街を結び、アートを地域に発信する拠点をつくる予定です。他の地域でも、山形では、まちを楽しくしようと、古い建物をリニューアルして「とんがりビル」を造り、秋田では、地域・個人・共同をコンセプトにした「ココラボラト



焼山アートプロジェクトでの活動

## やました こうへい 山下 晃平さん 休屋地区隊員

―これまでの活動は？

平成28年2月に市の「地域おこし協力隊」の休屋地区隊員として本市の湖畔地区に移住しました。

11月までは、湖畔休屋の十和田湖観光交流センター「ぷらっと」を拠点とし、12月からは十和田湖総合案内所のスペースを借りて活動していました。

主な業務は観光の活性化支援で、昨年はまず自分が勉強する年として活動を行ってききました。

昨年の主な活動は大きく分けて三つです。  
一つ目は、「知る活動」。



北海道札幌市出身。弘前大学教育学部卒業後、民間企業を経て2016年2月に着任、休屋地区担当となる。十和田湖観光交流センター「ぷらっと」を拠点に活動中。

赴任直後は湖畔地区の各家庭へのあいさつやアンケートを実施し、観光シーズンに入ってから十和田湖の名所や商店を回ったり、私自身も早朝ガイドに参加したりして十和田湖について学びました。

二つ目は、「協力活動」。「十和田湖マラソン」「十和田湖ウォーク」「十和田湖ヒルクライム」などのイベントへのスタッフ参加や、7月から9月にかけて実施した朝の遊覧船を見送る「遊覧船お見送り隊」。杉並木の旧参道復活へ向けた整備活動など十和田湖のさまざまな行事・活動の手伝いをさせてもらいました。

三つ目は、「伝える活動」。



十和田湖ウォーク

十和田湖で知ったことはなるべくそのままにしないように、フェイスブックを通じた情報発信を行っています。また、観光客が十和田湖での次の予定を見つけれられるように閲覧資料「十和田湖図鑑」を作成しています。こちらは第1弾として湖畔休屋の飲食店をまとめ、10月に休屋地区内の観光拠点に設置しました。

―今後の抱負は？

この地域の魅力といえばやはり「絵になる景観」です。湖上、展望所、散策路を歩きながら場所や方法を変えて楽しんで、時間や時期を変えて楽しんで探せば何度でも楽しめるような知り尽くせない魅力を持っていると感じています。

十和田湖の持つ神秘性から生まれたパワースポットも、スピリチュアル（霊的）な観点だけではなく、十和田信仰としての歴史や伝説に触れることができる魅力があります。信仰の基となっている十和田の自然史や生態など、「自然を親しみながら学べる」という魅力、そしてヒメマス養殖を代表とした「十和田湖と

リー」が、地域を充実させる実験室として運営されています。

本市では、地域の方同士に加えて他地域からの移住者との交流や、子どもから年配の方、また個人から企業など幅広い方々が知り合い、ともに楽しめる場をつくりたいと考えています。

年齢層、地域性、仕事などさまざまなバックグラウンドを持つ方たちが、いろいろな視点や声を互いに聞いたり、話すことから、今まで気づかなかった本市の魅力を再発見することにもなるでしょう。

この拠点では、皆さんの思いを生かして、地域の方が主体となって関われるワークショップなどを開催する予定です。アートを通して、市民の皆さんがつながりあい、生き生きと楽しめる場にしていきたいと考えています。

人との関わりの物語も備えており、見て楽しむ、知ってさらに楽しめる、知れば知るほど奥深くなる魅力を持った地域だとこの1年で改めて感じました。

こうした魅力の扉を、訪れた人がどんどん開けていけるような手助けをできればと考えています。

十和田湖に夢中な人、夢中になった人が新たな魅力を発見し、それをまた教えていく、そんなこの地域の魅力をテーマに、お互いが研究者にも先生にも学生にもなれる学校のような環境ができればと考えています。



「じちろいわ」への道 名所調査